

6月11日(土)～13日(月)

# 釜石復興まちづくりワークショップ

< 全体説明 >

釜石市災害復興プロジェクト会議 委員

遠 藤 新

(工学院大学建築学部)

はじめに：

## ■復興まちづくりワークショップの目的

- 釜石市復興まちづくり基本計画の素案づくりに釜石市民が主体的に関われる場をつくる。(市民の生の声を広く吸い上げて計画案に取り入れていくための機会をつくる。)

## ■ワークショップとは？

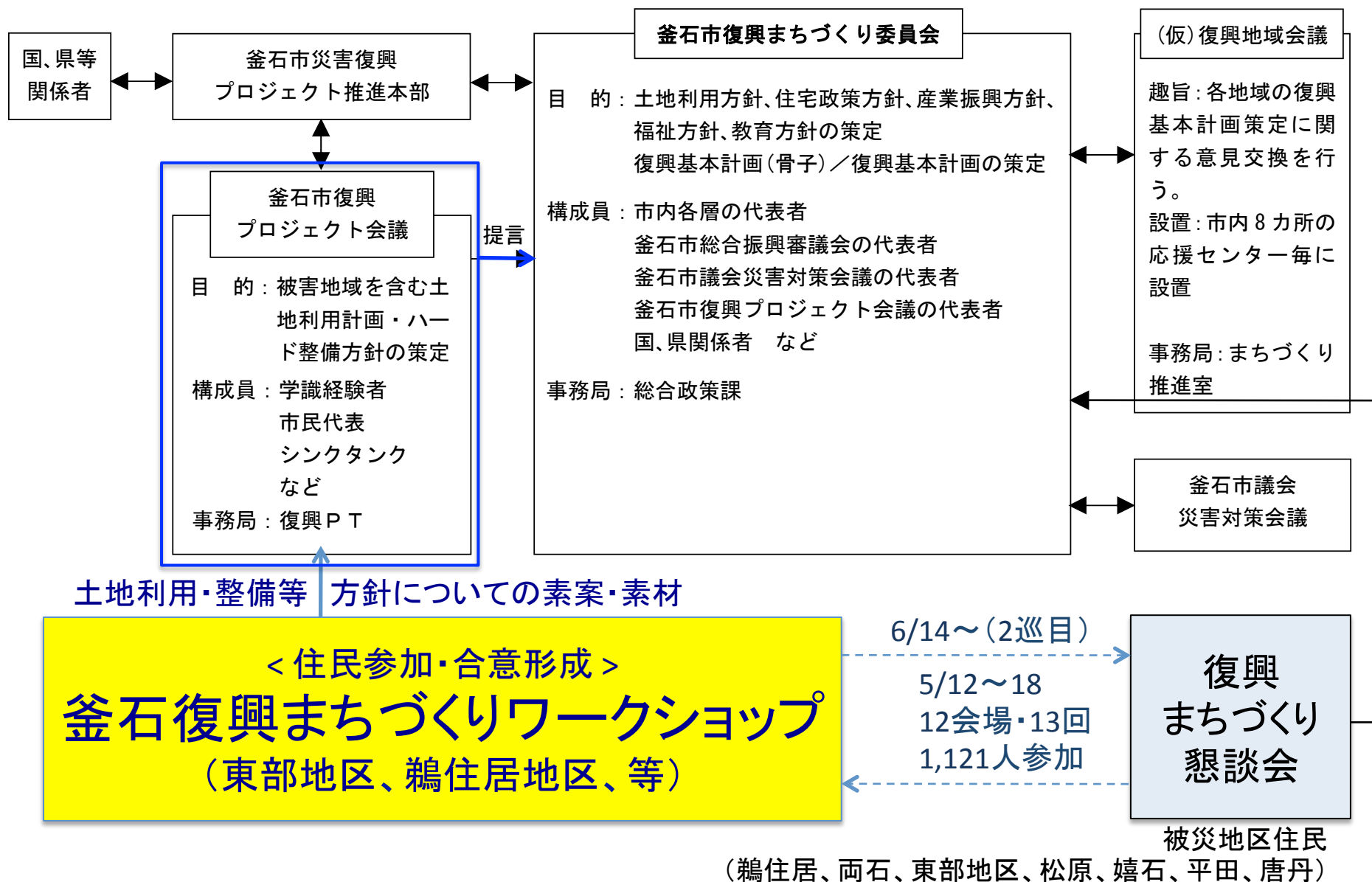
- 小グループの中で自由な雰囲気のもとに意見を出し合う場。
- 参加者がお互いに協力し合って、成果物(基本計画の素案など)をつくりあげていく場。

## ■ワークショップの対象地区

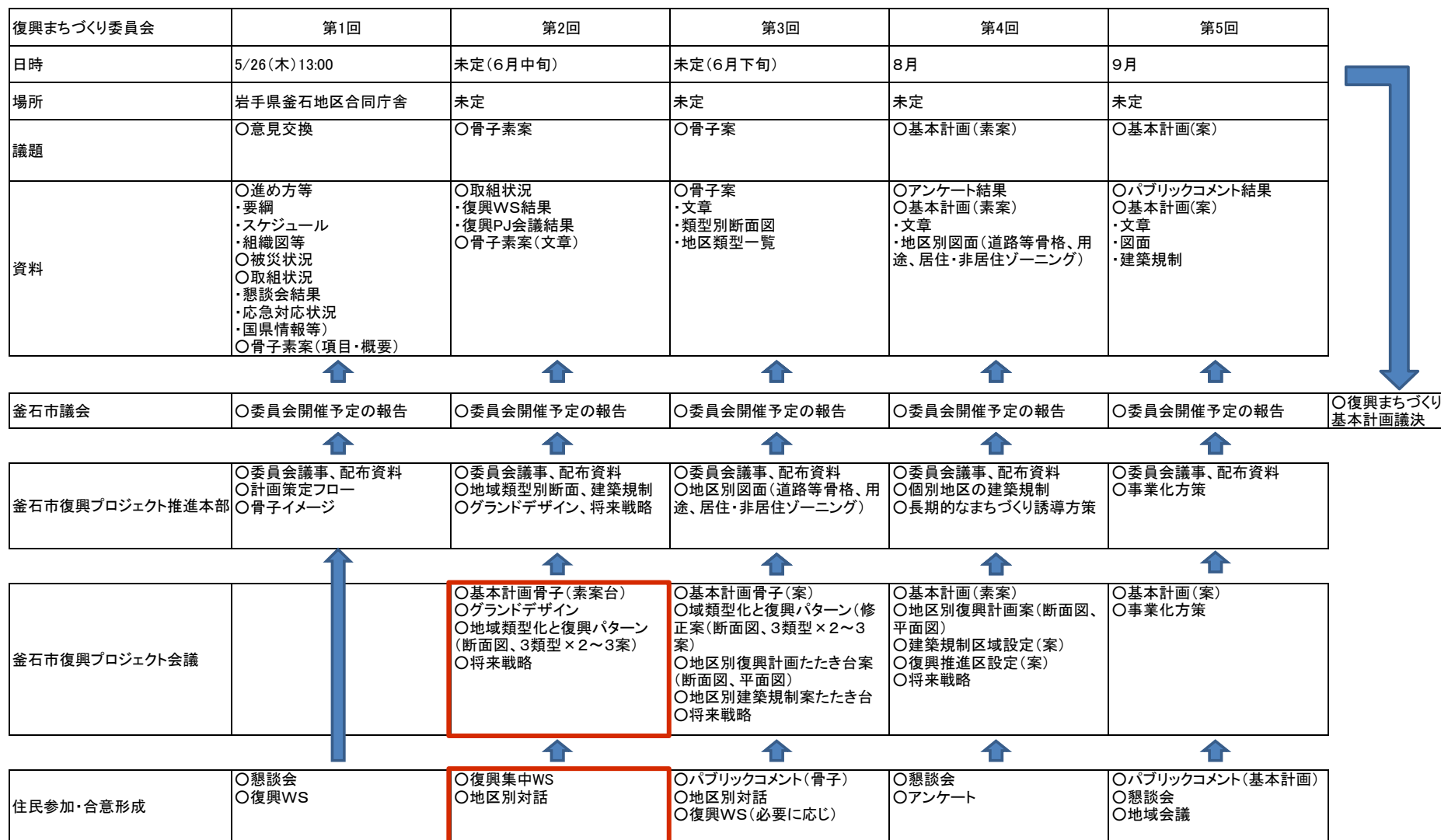
- 東部地区
- 鵜住居地区



## 釜石市復興まちづくり計画策定にかかる検討組織体制／wsの成果をどう生かす？



# 釜石市復興まちづくり基本計画策定フロー（予定）／WSの成果をどう生かす？



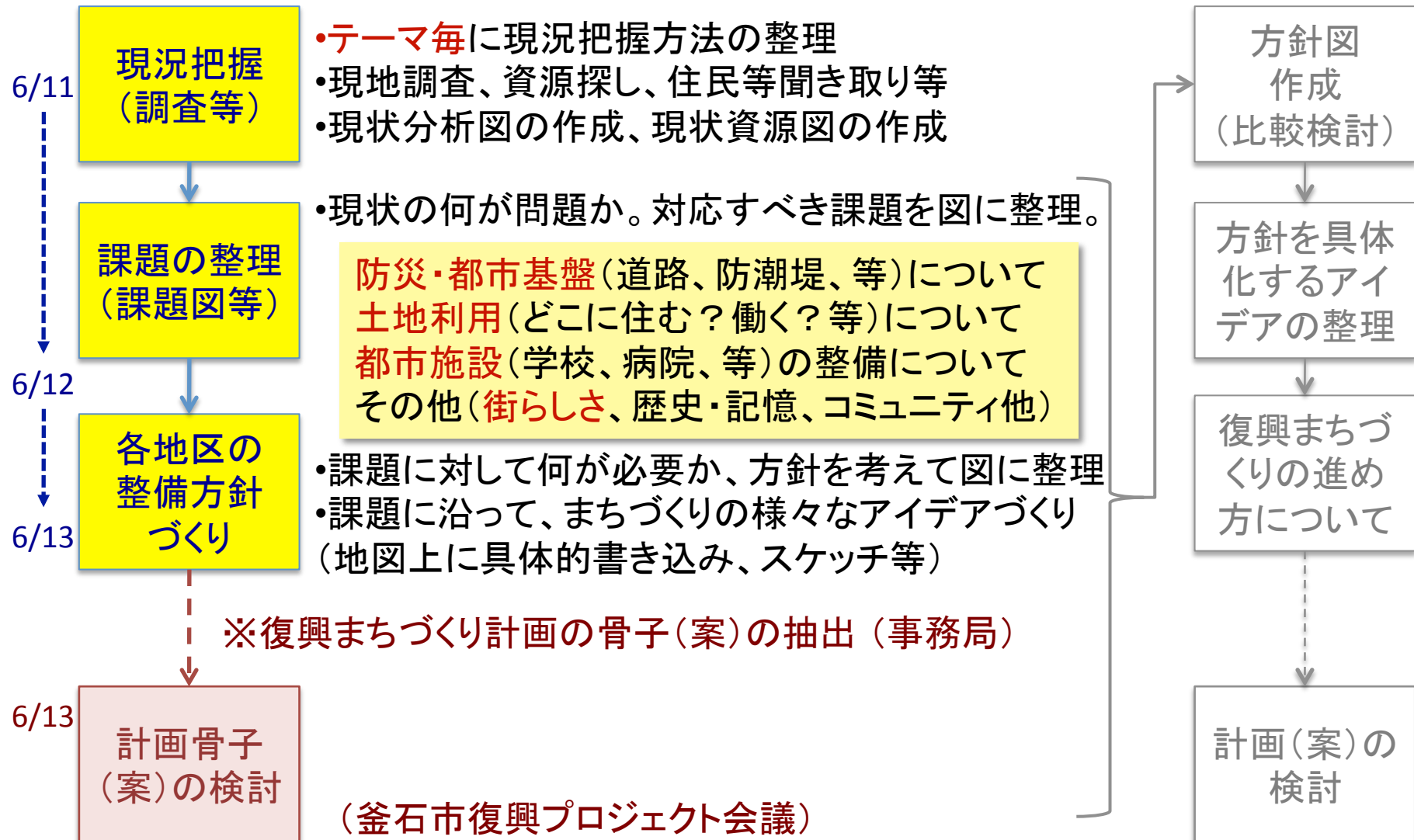
## ワークショップの流れ（3日間で何をするのか？）

### 第1回 ワークショップ（6/11-13）

## 被災エリアのまちづくりの方針を考える

### 第2回 ワークショップ

計画の具体的内容、進め方等



## ワークショップの作業にはどのように参加すればよいのか？

---

- **4つのテーマ**(後述)ごとに作業テーブルを設置。  
(東部地区4テーブル+鵜住居地区4テーブル=合計8テーブル)
- 市民は興味のあるテーブルを最初に1つ選び、その中で課題の整理、方針の整理といった作業を行う。(3日目は自由にテーブルを動き、意見を出す)
- **コアタイム**を設ける。この時間帯は全チームが原則として会場で議論・作業を行う。(市民にも可能な限りこの時間に集まってもらう)
- 各テーブルの横に「**まちづくり意見・アイデア投稿板**」を設置。テーブル内の議論や作業に参加していない時間に、各自の思いを自由に投稿できる。(ポストイットに記入、添付)
- 各テーマは議論を限定するというより**議論の視点**を提供するもの。そのテーマから作業や議論を出発して、被災エリアのまちづくりや都市計画の全体を考えていけると良い。

## ワークショップにおける議論・作業のテーマ

### 釜石市復興まちづくり基本方針（野田市長2011.4.11）

WSのテーマ  
（都市計画のキーワード）

#### 1. 災害に強い都市構造への抜本的転換

- 災害に強い都市構造：都市基盤、土地利用、都市施設等
- 検証：震災前の市街地は災害にどこまで有効だったか？
- 検証：避難者はどのように避難できたか？
- 被災の教訓をまちづくりに

#### 2. この地で生き続けるための生活基盤の早期復興

- 生活基盤の復興：産業の再生、地域社会のつながりの再生
- 釜石に生き続ける：釜石らしさの復興、歴史風土を継承する

#### 3. 逆境をバネにした地域経済の再建

- 逆境：水際の平地の再生、地域経済再建のための利活用
- 地域資源を生かす、都市縮退の構図を乗り越える
- 生活様式を見直し、新たな釜石を考える

#### 4. 子どもたちが未来に希望を持てるまちづくり

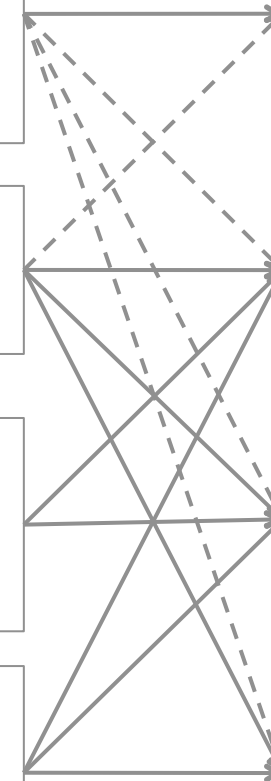
- 子供たち、若者たちが暮らしたいと思える釜石
- 将来の産業、居住、（福祉、教育、他）
- ローカルアイデンティティの再構築

A. 防 災

B. 地域性

C. 産 業

D. 居 住



## A. 防災：災害に強い釜石

- 災害に強い釜石になるために何が必要か。都市の骨格、他
- 過去の防災対策は有効に働いたのか。
- 住宅や公共施設等の高台移転／高所移転について。
- 浸水地域（水際の平地等）をどのように再生するか。
- 避難経路、避難のあり方をどう考えるか。



## **B. 地域性：取り戻したい釜石風景／未来へつなげたい釜石風景**

- 鵜住居／東部地区の風景の特徴は何か。今どこにどのような形で残されているか。今後どのように残せるか。暮らし方との関係は。
- 風景の骨格：地形、海、山、街、気象・生態系を含めた相互関係
- 津波被害後に新しく生まれた風景をどうするか。
- 慰霊の場を考える。将来の世代に何をどのように伝えるか。

## C. 産業：なりわいの再生／経済活動の基盤の再生

- 水産業・関連産業の再生（関連施設整備、後背地の土地利用等）
- 中心商店街／中心市街地の再生
- 観光産業の再生
- 釜石市主要プロジェクトの再生（水際の産業関連）

エコタウン事業、リサイクル事業、海洋バイオテクノロジー研究、リサイクルポート、物流基盤整備、新釜石魚市場建設事業、海と山のグリーンツーリズム、中心市街地の賑わいづくり

→ 浸水エリアの活用、必要なインフラや施設、新しい産業、等

## D. 居住：住み続けたい釜石

- 地域社会の再構築、コミュニティの再生
- 居住・なりわい・産業の他に、どのような場の再生が必要か。
- 復興につながる仮設市街地とは？
- 震災前からつづく人口減少と高齢化の趨勢をどう考えるか。

## スケジュール1：6/11（土）の進め方

6/11(土)	現地を知る・課題を探る	コアタイム
8:30-9:30	WSオリエンテーション 越村先生レクチャー チーム分け(2地区×4テーブル)	
9:30-10:30	作業1: 作業方針を決める ・ 各テーマに関する論点の整理 ・ 配布資料読み込み、現地調査段取り ・ ヒアリングのアポイント等	
11:00-15:00 (昼食は適宜)	作業2: 現地調査・情報収集 ・ 課題の整理＋課題図の作成	
15:00-17:00	作業3: 現況分析 ・ 課題図の作成、地域資源図の作成	議論 15:00～17:00
17:00-19:00	■発表1: 作業報告×8チーム (@発表5分＋意見交換等10分)	発表・意見交換 17:00-19:00
19:00-20:00	◎第1回釜石市復興プロジェクト会議 (メンバー紹介、今後の進め方、他)	
夜	情報交換、作業のまとめ	

## スケジュール2：6/12（日）の進め方

6/12(日)	整備の方針を考える	コアタイム
9:00-11:00	<b>作業4: 現況分析のつづき</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>前日の意見交換を踏まえて修正等</li> <li>ヒアリングなど調査の補足</li> </ul>	
11:00-12:00	<昼休憩>	
12:00-15:00	<b>作業5: 整備方針図の作成</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>各テーマに関する基本方針の整理</li> <li>図にまとめる項目: (1)防災・都市基盤 (2)土地利用 (3)都市施設 (4)その他</li> </ul>	<b>議論</b> <b>12:00-15:00</b>
15:00-17:00	<b>■発表2: 鵜住居地区</b> (@発表15分+意見交換15分)×4チーム	<b>発表(鵜住居)</b> <b>15:00-17:00</b>
17:00-17:30	<休憩・後半準備>	
17:30-19:30	<b>■発表3: 東部地区</b> (@発表15分+意見交換15分)×4チーム	<b>発表(東部)</b> <b>17:30-19:30</b>
19:30-20:00	コメント+質疑応答+まとめ	
21:00頃～	懇親会(意見交換)	

### スケジュール3：6/13（月）の進め方

6/13(月)	アイデアを出す	コアタイム
9:00-10:00	<b>作業6:整備方針のまとめ</b> ・ 前日の質疑を踏まえて方針の再整理	
10:00-11:30	<b>作業7:まちづくりアイデアの自由討議</b> ・ 8テーブルを市民が自由に動き議論 ・ 整備方針の精査、整備等のアイデア	<b>議論</b> <b>10:00-11:30</b>
11:30-13:30	<b>■発表4:作業報告</b> (@発表5分+意見交換等10分)×8チーム ・ 意見の紹介、素案整理の方向性	<b>発表</b> <b>11:30-13:30</b>
13:30-14:00	<会議準備>	
14:00-16:00	◎第2回釜石市復興プロジェクト会議 (骨子案の審議)	

## 議論や作業を手伝う人（各テーブルのスタッフ紹介）

地区	テーマ	テーブルマネージャ	Tマネ補助	記録・作業協力
鵜住居	A.防災	（建設技術研究所）	（伊東建築塾）	伊東建築塾 学生（東北大学、 工学院大学、関 東学院大学）
	B.地域性	中津英之（関東学院大学）	（建設技術研究所）	
	C.産業	（建設技術研究所）	岡田豊（みずほ総研）	
	D.居住	秋田典子（千葉大学）	（建設技術研究所）	
東部地区	A.防災	中島直人（慶応大学）	（建設技術研究所）	
	B.地域性	吉岡寛之（伊東建築塾）	（建設技術研究所）	
	C.産業	瀬田史彦（大阪市立大学）	（建設技術研究所）	
	D.居住	大堀 研（東京大学）	（建設技術研究所）	

全体：伊東豊雄、遠藤新（都市計画）、小野田泰明（建築）、越村俊一（防災）